

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2019年12月20日発行

編集・発行：中央教育研究所(株) 〒730-0013 広島市中区八丁堀15-6

<http://www.chuoh-kyouiku.co.jp>



中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」

vol.94

<受験期の学習指導>

12月も半ばになりました。冬期講習を間近に控えて、いよいよ本格的に受験シーズンに突入です。皆さんの学習塾でも、受験生の眼の色が変わり、講師の皆さんも緊張感が高まっていることでしょう。

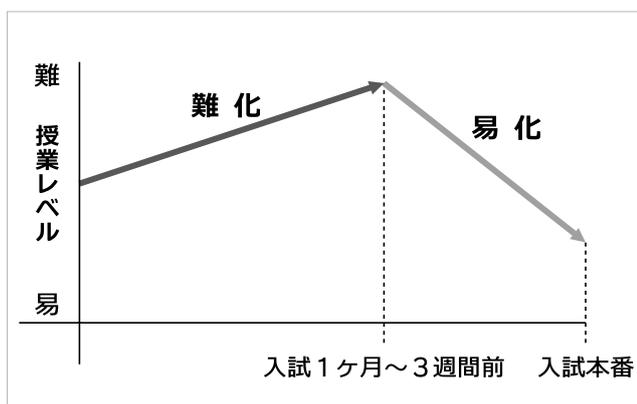
そこで、この時期の受験生への注意点を3点、確認しておこうと思います。

※受験生への注意点3点

1. 授業レベル

入学試験当日から逆算して1ヶ月～3週間前までは授業の難度レベルは落とさずに、逆に徐々に難度を上げる（難化へ）ようにします。その理由は、学力面と精神的な面の両面に負荷をかけ、入試を勝ち抜く「力」＝「合格体力」を養っていくためです。

その後は、徐々に問題の難度を下げていきます。（易化へ）。この理由は解ける問題練習を増やすことで、生徒に「自信」をつけるためです。「自信」とは、現在その問題が解ける力を持っていることの「確信」ですから、入試同程度の問題が「解けるぞ!」という確信は、実際に解けることから生じるので、解ける問題を解かせることが必要なのです。



2. 過去問の指示

皆さんの塾では、過去問指導を行っていますか。過去問は、その生徒が志望していない学校の過去問も、こちらが指示をして解かせる必要があります。例えば、国私立中学や国私立高校を目指している受験生なら、「出題傾向が似ている学校、例えば、記述の多いじっくり型とか、設問の多いテキパキ解く型などという傾向での分類をしてみる」、「学校の思想が似ている系列校（早稲田系、立命館系など）」、また、「その学校の志願者が多く受ける併願校」の過去問を、生徒の状況に応じて与えていきま

す。また、公立高校受験は、自県の過去問だけでなく、受験者数や人口がほぼ同等レベルの県の過去問を解かせると試験形式や何度が似ているので、実施させてください。電話帳と比喻される「全国高校入試問題正解」を揃えて、受験校に類似の過去問を探して実施させましょう。

3. 就寝・起床時間の指導

受験生への生活指導の要は「時間の管理」です。これは、受験当日の動きに慣れるためです。受験は冬休み後にありますから、冬休み中の起床時間には要注意です。学校が休みだからといって夜遅くまで、演習をやり、朝はゆっくりと寝ているという生活スタイルにならないようにしなければいけません。生理学的にも、睡眠は深夜を過ぎてから就寝することでは、体も脳も休養は取れないそうですし、特に脳は睡眠中に記憶を整理整頓させるので、深夜前に寝て、朝は早く起きるという習慣に切り替えましょう。冬期講習では、受験生は朝一番に時間割を組んでいることと思いますが、生徒達には、生徒面談や進学ガイダンス等で起床時間と就寝時間については注意を喚起していく必要があります。

前述のように、学校が休みだからといって、生徒の生活を夜型にしてはいけません。入学試験は（一部の私立中学を除いて）朝から行われます。朝一番から頭を動かせるためにも生徒の冬休み中の就寝時間と起床時間には注意が必要なのです。

以上の3点は受験生には必須の行動です。これからの時期、受験が近づくにつれて生徒も保護者も不安が増してきます。その不安解消のためにも、しっかりと明確なコミュニケーションをとり、具体的な行動がとれる指示を与えてください。誰もが、明るい春を迎えるためにです。

2019年もお世話になりました。それでは、皆さん、良いお年をお迎えください!

【編集後記】

◆MBA塾経営革新メンバー募集◆

塾経営に役立つ情報誌・ツールを毎月配信。消費税が上がった今だからこそ、経営基盤を強化するノウハウを獲得してください。只今サンプル公開中!

▼「MBA塾経営革新メンバー」の詳細はこちら

https://management-brain.com/members_join/

中土井流の授業術を徹底伝授するストーリーミング動画

「生徒のやる気を引き出す教師の授業スキル」好評発売中!

「受容」「共感」「承認」をキーワードに、授業で興味や驚き、感動を与え、生徒のやる気を引き出す方法をお伝えします。

☆詳しい内容紹介・ご購入はこちらから☆

<http://management-brain.com/lp2>

数字でみる学習塾経営・業界のトレンド vol.58

「成績」が意味するもの

当たり前の話ですが、「成績を上げる！」を看板に出していない学習塾はほとんどありません。その「成績」が意味するものは何なのか。「成績」を上げるためにはどうすればよいか。今回はそのあたりについてちょっと考えてみましょう。

一般的に学校の「成績」という場合、2つの意味が含まれています。

1つは定期テストにおける「点数、順位、偏差値」、もう1つは通信表の「評定」。

実はわたしは、多くの塾がこのうちのどちらを「成績」と定義しているのか、あまり明確に示していないことが気になっています。

そのため、生徒や保護者が考える「成績」と塾側が考える「成績」との間で混乱が生じ、「あの塾では成績が上がらない」という本意な評価が下されることもあるのではないかと感じています。

皆さんはどういうふうにされていらっしゃるのでしょうか。

すでに長い間、「ウチは定期テスト」と明示している場合はそれで構いません。

が、もしもそうでない場合、可能ならばわたしは「評定」を「成績」とすることをお勧めしたいと思います。

理由は単純明快です。

上級校への進学に際して、基準とされるのは「評定」であって、定期テストの点数ではないからです。

また、定期テストの点数よりも、「評定」を気に掛ける親御さんのほうが多数派ではないかと思っているからです。

ちなみに、文科省が「成績」の記録を残すために学校側に例示している「指導要録（参考様式）」というのをご存じでしょうか。

中学校の例を眺めてみますと、「各教科の学習の記録」という表題の下に「国語」「社会」等々の欄があります。

さらにその欄は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」「評定」の4つに区分され、それぞれ5から1の数字を書き込むように作られています。いわゆる学力の3要素ですね。

定期テストの「点数、順位、偏差値」はこのうちの「知識・技能」に、「評定」は「知識・技能」を含めた上記3つの総合点に相当するとみてよからうと思います。

学校側が上級校に送るのは言うまでもなく、この「評定」にほかなりません。

では、塾は、「評定」を上げるためにどう指導したらよいのでしょうか。

これまた一般的には、「評定」は「定期テスト」と「授業態度」と「宿題」の組み合わせで決定されると言われています。

このうち、「定期テスト」と「宿題」の指導方法は分かります。「定期テスト」はこれまでの指導で十分ですし、「宿題」に関してはきちんと管理すれば何とかかなるでしょう。

問題は「授業態度」です。毎日、学校まで出て行って、塾生の授業中の様子を監視するわけにもいきません。

じゃあ、どうすればと思っていたところ、こんなデータがあるのを見つけました。ノートメーカーのコクヨが昨年11月に発表した調査の結果です（調査時期・2018年5月／対象・全国の中学、高校教師／有効回答数・412名）。

●生徒のノートを回収することはありますか。また回収したノートの評価の一環として採点することはありますか？

	中学校教師	高校教師	全体
回収し、採点し、評価する	78.2%	67.5%	72.8%
回収し、評価しない	9.2%	10.7%	10.0%
回収しない	12.1%	19.4%	15.8%

子どもたちの「授業態度」を点数化するために、学校の先生方は子どもたちが授業中に挙手をした回数を記録している、という噂話が20数年前にありました。

そこまでやらなくても、ノートをみれば授業中、個々の子どもがどういう態度で勉強しているかすぐわかるはずですよ。

高校入試にせよ大学入試にせよ、一発試験だけではなく、受験生の日常的な学習が重視される時代になってきました。塾でも、どういふふうにとノートを取ればよいのかというような、丁寧な指導が必要になってきているのではないのでしょうか。

PS・コンサルティング・システム

小林 弘典